

事業番号	04 06 03	事業改善シート（28年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	子どもの個性を伸ばす教育研究モデル事業			担当課	部局	県民文化部	
					課・局・室	次世代サポート課	
総合5か年計画	プロジェクト				E-mail	jisedai@pref.nagano.lg.jp	
	施策の総合的展開	7－2 子育て先進県の実現 7 困難を有する子ども・若者への支援		実施期間	H25 ～		
	人口定着・確かな暮らし実現総合戦略	信州創生の基本方針	4－2 信州創生を担う人材の確保・育成				
	施策展開	2-(3) 知の集積と教育の充実 イ 未来の信州を担う子どもたちの教育の充実 (ア) 多様な教育の推進					

1 事業の概要

目指す姿	発達障がいの子ども・若者に対し、個々の適性や興味に応じた指導により個性を伸ばし、生きていく気力を育む教育の長野モデルを構築する。				
現状（予算編成時）	「発達障がいを専門的に行う学校」として平成26年度に公募により開校した長野翔和学園が、開校からの2年間に実績を重ねてきた、子ども・若者の「生きていく気力」を育てる教育は、支援を受けている発達障がいの学生と保護者から高い評価を得ている。しかし、教育的効果の検証や、教育、医療、福祉、就労等の各分野との連携が不足しているため、県内への普及が図られていない。				
県が関与する理由	県関与の必要性あり		【左記の説明、根拠法令等】		
	県民との協働による実施： 実施中		全県での対応には県の関与が必要。		
成果目標・事業内容	① 成果目標（H28）				
	・学習教材の開発：1教材 ・発達障がいの子ども・若者に対する、教育相談・教育支援を前年度実績以上に対応する。				
	② 事業内容 (単位：千円)				
	項目	実施方法	H28事業実績	H28 (当初) (決算) H29 (当初)	
	子どもの個性を伸ばす教育研究モデル事業	直接委託	・個性を伸ばす教育の教育的効果を研究・検証する検討会を3回開催。教材開発のため検討会を6回開催。 ・発達障がいのある生徒の教育相談支援業務を委託し、電話による相談、面談などを実施。 (委託先：NPO法人翔和学園)	26,117	20,602
		合計	26,117	20,602	19,230

事業コスト	区分(単位：千円)	27年度	28年度	29年度	成果目標の達成状況							
	予算額	前年度繰越				項目	H26末	H27末	H28			H29 目標
		当初予算	12,028	26,117	19,230				目標	成果	達成状況	
		補正予算		-2,000								
		合計(A)	12,028	24,117	19,230							
	Aの財源	一般財源	11,968	24,097	19,230	学習教材の開発	—	—	1教材	未完成	未達成	1教材
		県債				相談延べ件数	750	662	現況以上	858	達成	H28年度末以上
		国庫支出金										
		その他	60	20	0							
	決算額(B)	11,976	20,602									
概算人件費	職員数(人)	0.20	0.20	0.20								
	概算人件費(C)	1,652	1,652	1,652								
概算事業費(B(A)+C)	13,628	22,254	20,882									

目標に対する成果の状況	・学習教材の開発については、内容だけではなく普及方法も含め丁寧な検討を行う必要があるため、継続事業とした。 ・相談延べ件数については、在籍する高等学校等の先生や家庭と連携、生徒に寄り添ったきめ細やかな支援を行ったことにより、現況以上の対応となった。
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	・発達障がいの児童生徒が増加している背景の一つとして、発達障がいに対する知識・理解が普及してきたことが考えられる。他方、発達障がい等発達支援を必要とする児童生徒に対しては、個々に応じた多様な対応が必要であり、専門的な指導・支援が求められている。そのため、発達に様々な特性を持つ子ども・若者の、それぞれの個性を伸ばすということに重点を置いた先進的な支援方法について引き続き検討し、教育委員会と連携しつつ、支援教育の一つの手法として県内への普及を目指す。 ・引き続き、発達に特性を持つ子ども・若者に対する教育相談支援事業を実施する。